

すぐに わかる えびののこ
いき わかい えびのんこつ



こめ えびのの米づくり

こめ はじ
— 米づくりの始まり —



しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

もくじ
目次



1. えびので^{こめ}米づくりを^{はじ}始めたのはいつ? 1
- ^{こめ}米づくりが^{つた}伝わったルート 2
- えびので^{こめ}米づくりが^{はじ}始まったのは! 3
- ^{くわたいせき}桑田遺跡 ^{いなさくでんば}の^{いなさくでんば}稲作伝播がわかる^{きちょう}貴重な^{きちょう}なてがかりとは! 4



2. ^{やよいじだい}弥生時代の^{こめ}米づくりはどのようにしていたの? 6

- ^{やよいじだい}弥生時代～^{こふんじだい}古墳時代の^{たてあなじゅうきよあと}竪穴住居跡 8



3. ^{こめ}お米の^{ちょうり}調理はどうしていたの? ^{やよいじだい}弥生時代～^{こふんじだい}古墳時代 . . . 9



1. えびの^{こめ}で米づくりを^{はじ}始めたのはいつ？



やたけこうげん み し きりしまやま
矢岳高原から見えるえびの市と霧島山

えびの^{こだいじん}に古代人が^す住み^{はじ}始めたのは、^{きゆうせっき}旧石器

^{じだい}時代の^{やく まんねんまえ かんが}※1)約3万年前と考 えられています。

^{ひとびと やせい どうしょくぶつ}
人々は野生の動植物を

^{しゅりょう さいしゅ}
狩猟・採取するために

^{どうぶつ む お}
動物の群れを追ったり

^{いどう せいかつ}
しながら移動する生活をしていました。



ナウマンゾウの^は歯の化石^{かせき}がえびの市^し
^{すぎづるちく ぼっけん}
杉水流地区で発見されています！



たてあなじゅうきよ
竪穴住居

^{じょうもんじだい}
縄文時代になると^{どき つく}土器を作り、

^{たてあなじゅうきよ す}
竪穴住居に住んでいました。

※1) えびの^{やく まん}では、約2万8000年前の^{ねんまえ せっき しゅつど}石器が出土しています。^{ほんしせいほくぶ けんざかい}本市西北部の県境から産出
^{こくようせき まんねんまえ みなみきゅうしゅう りゅうつう}
する黒曜石は3万年前には南九州に流通している^{ころ}ので、その頃^{いどうせいかつ しゅりょう}から移動生活(狩猟・
^{さいしゅ やえい}
採取・野営)が始まっていたようです。

^{じょうもんじだい}
【縄文時代】約1万5000年前～約3000年前^{ねんまえ}

いま やく ねんまえごろ こめ ちゅうごくたいりく
今から約2900年前頃、米づくりは中国大陸

にほん ほうくぶきゅうしゅう つた ひがし みなみ つた
から日本の北部九州に伝わり、東へ南へと伝
わっていきました。



こめ つた 米づくりが伝わったルート



さいきん ちようせんはんとにしがわけいゆ
最近までは、① 朝鮮半島西側経由ルートが

つうせつ ちよつきん ちゅうごくちようこうか こう
通説でしたが、直近では、② 中国長江河口

ちよくせつ しゅりゅう かんてい
直接ルートからが主流ではないか (DNA鑑定

などで)といわれ始めています。

みなみきゅうしゅう
南九州にも

こめ つた
米づくりが伝わり、

やく ねんまえごろ
約2600年前頃の

やよいじだいぜんきごろ
弥生時代前期頃か



はじ すうねん けんかい
ら始まったというのがここ数年の見解です。



こめ はじ
えびので米づくりが始まったのは!

こめ はじ じ き おな やく
えびので米づくりが始まった時期も同じく約26

ねんまえごろ かんが
00年前頃からと考えられています。



うわえ くわたいせき げんざい
上江の「桑田遺跡(現在、

うわえ ち くたいいくかん ところ
上江地区体育館のある所)」

いなさく おこ
に稲作が行なわれたとされる

きちょう て けんしゅつ
貴重な手がかりが検出されています。

【やよいじだい】きげんぜん せいき きげん せいきなかごろ
紀元前7世紀～紀元3世紀中頃

きげんぜん せいき あたら けんきゅうせい か
(紀元前10世紀～とする新しい研究成果もあります。)



くわたいせき いなさくでんぱ いなさく つた ひろ
桑田遺跡の稲作伝播 (稲作が伝わり広ま
 った) がわかる貴重な手がかりとは!



いなさくでんぱ けんしゅつ
稲作伝播のメクマールを検出!

いなさくでんぱ しひょう ものごと けんとう
 稲作伝播のメクマール (指標: 物事の見当を

めじるし
 つけるための目印) ともい

ど き きざみ め とったいもん ど
 える土器 (刻目突帯文土

器) やプラント・オパールな

けんしゅつ
 どが検出されています。

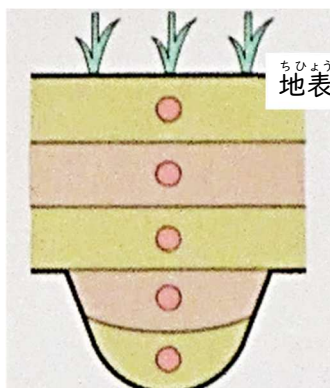


くわたいせき
 桑田遺跡では、メクマールともいえる
 きざみ め とったいもん どの 破片が約500点
 ほかせつき しゅつど
 他石器なども出土しています。

けんしゅつ
プラント・オパールを検出!



ぶぶん つち さいしゅ むずあら
 部分の土を採取、水洗い
 けんびきょう かんさつ
 をして顕微鏡で観察



みぞじょういこう
 溝状遺構
 (溝状に掘った跡)



けんびきょう ばい
 顕微鏡でみたプラント・オパール (400倍)
 このイネはジャポニカの中の熱帯型に属す
 るといわれています。



↑稲の葉を拡大!! (イラスト)

いね とらいしゅ は ふち は
 稲は渡来種であり、葉の縁はカミソリの刃の
 【渡来】外国から海を渡って来ること。

ようになっています。これを形成するのが植物

けいさんたい どちゅう けいさん
 珪酸体 (プラント・オパール) です。土中の珪酸
 【珪酸】①珪素・酸素・水素の化合物。②二酸化珪素の俗称。天然に石英・水晶などと
 して産出。ガラス・陶磁器の原料。

たいりょう きゅうしゅう せいしつ
 を大量に吸収する性質であること、またガラス

しつ すまんねん た どちゅう のこ
 質であることから、数万年経っても土中に残り

ます。



くわたいせき しゅつど
 桑田遺跡から出土した
 打製石斧 (石鋏)

くわたいせき しゅつど
 桑田遺跡から出土した
 石斧は石鋏で、土を掘る
 道具と推定されています。



やく ねんまえごろつく いね すいとう
 えびので約2600年前頃作っていた稲は、水稻

た いね おかぼ はたけ
 (田んぼでつくる稲) ではなく、陸稻 (畑でつくる

いね かんが
 稲) だったのではないかと考えられています。

やよいじだい こめ
2. 弥生時代の米づくりは

どのようにしていたの？



やよいじだい しゅうらく すいでん ようすいろ み
弥生時代の集落には水田とあぜ、用水路のあとなどが見つかっています。



きでできたくわ
木でできた鋤



たう
田植え

はる きでできくわ すきつか た
春には、木で出来た鋤や鋤を使って田んぼ

たがや たう
を耕して田植えをしていました。



あき しゅうかく いしぼうちよう
秋の収穫は、石包丁



いしぼうちよう しゅうかく
石包丁で収穫

と
でつみ取っていました。



えびので出土した石包丁はすべて弥生時代後期から古墳時代前期のもので、上江・芋畑地区など10か所以上から30点ほどが出土しています。

いしぼうちよう つか かた
石包丁の使い方
いしぼうちよう いね ほさき おやゆび ほさき はさ おりと
石包丁は、稲の穂先を親指と刃先で挟んで折取る
どうぐ いっぱんてき なが
道具です。一般的には、長さ12~13cmですが、えび
ので出土したものはそれより小型です。



たかゆかしき そうこ
高床式の倉庫



いね ほ きうす きね もみ
稲の穂を木臼と杵で粳すりをする

か いなほ たば ほ たかゆかしき そうこ
刈った稲穂は束にして干し、高床式の倉庫に

ほぞん た きうす いね ほ い きね
保存し、食べるときは木臼に稲の穂を入れ杵で

だっこく もみ
ついて脱穀と粳すりをしてしました。

やがて、青銅器や鉄器が中国

や朝鮮から伝わり、農具も木製

の刃先に鉄を付けて使う
ようになっていきました。



弥生時代～古墳時代の竪穴住居跡



写真は、内小野遺跡（西川北地区）の弥生

時代後期と古墳時代の竪穴住居の集落です。

この時代の集落は、えびの市内各所で発見

されています。

花弁状住居跡も市内各所で発見されています。
上から見ると花びらの形をしています。住居の外側
に地山を掘り残した壁によって間仕切りされた空間を
多数設けています。



本地原遺跡（原田地区）
の花弁状住居跡（直径7m）

3. お米の調理はどうしていたの？



やよいじだい こぶんじだい
弥生時代～古墳時代

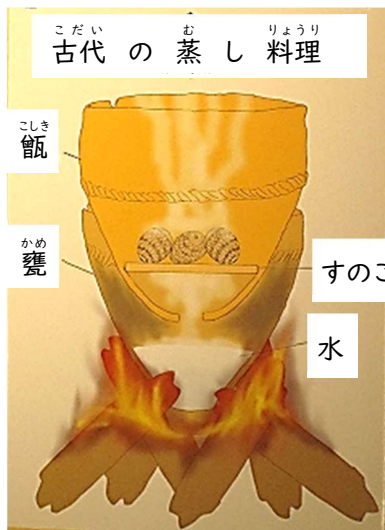
こめづく はじ ころ どき
米作りが始まった頃は、土器

こめ みず い こめいがい
に米と水を入れて(米以外のアワ

あずき いっしょ た
・ヒエ・小豆なども一緒に)炊い

ぞうすい た
て雑炊のように食べていたので

かんが
はないかと考えられています。



せいぎごろ こぶんじだいちゅうき
6世紀頃(古墳時代中期)

こしき つか おむ た
になると、甑を使い蒸して食

かんが
べていたと考えられています。

す。

し てんじんめんいせき
えびの市でも天神免遺跡

こしき どき はくつ
から甑の土器が発掘されて

います。



てんじんめんいせき まさき おまつちく
天神免遺跡(真幸・岡松地区)から
しゅつど こしき
出土した甑

こしき こめ おむ
甑とは、米などを蒸すのに用いる器です。

そこ じょうき とおす あな
底に蒸気を通す穴が開いています。

【古墳時代】紀元3世紀後半～7世紀前半



し れ き し み ん ぞ く し り よ う か ん
えびの市歴史民俗資料館で
し な い い せ き
は、えびの市内の遺跡から
は っ く つ せ っ き ど き こ め
発掘された石器や土器(米づく
り が 始 ま っ た 頃 の も の) な ど
は じ こ ろ
展示しています。
て ん じ
ぜ ひ 、 実 物 を ご ら ん く だ さ い !
じ つ ぶ つ



し れ き し み ん ぞ く し り よ う か ん て ん じ し つ
えびの市歴史民俗資料館 展示室

参考・引用文献

<図書>

資料名	発行年	著者・编者	出版社・発行所など
えびの市埋蔵文化財調査報告書第19集 内小野遺跡 県営緊急畑地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財 発掘調査概要	1997年3月	えびの市教育委員会	えびの市教育委員会
えびの市埋蔵文化財調査報告書第56集 桑田遺跡・二本杉遺跡・元巣塚 上江地区体育館・美化センター建設・史蹟整備 事業に伴う発掘調査報告書	2019年2月	えびの市教育委員会	えびの市教育委員会
えびの市史 上巻	1994年3月	えびの市郷土史編さん委員会/編	えびの市
えびのの稲作史 いなほ	1983年3月	生活誌編纂委員会	えびの農業改良普及所
宮崎県の歴史 県史45	1999年9月	坂上康俊・長津宗重・福島金 治・大賀郁夫・西川誠	山川出版社
最新版 図解知識ゼロからのコメ入門	2019年10月	八木宏典/監修	一般法人 家の光協会
イラストでわかる日本の歴史じてん	2022年10月	成美堂出版編集部/編	成美堂出版
よくわかる米の辞典3 米づくりの歴史	2016年4月	稲垣栄洋/監修	株式会社 小峰書店
「歴史ごはん」 食事から日本の歴史を調べる 第1巻 縄文~弥生~奈良時代の食事	2018年12月	永山久夫・山本博文/監修	株式会社 くもん出版
わくわく!探検 れきはく日本の歴史1先史・古代	2019年4月	国立博物館/編	株式会社 吉川弘文館
令和5年度国際交流展 農耕への道 ~九州・台湾における植物栽培のはじまり~	2023年10月	松本茂/編	宮崎県立西都原考古博物館
令和4年度国際交流展 古墳時代の「台所革命」と東アジア ~美味なる“ごはん”の考古学~	2022年	今塩屋毅行/編	宮崎県立西都原考古博物館
広辞苑 第三版	1983年12月	新村出/編	株式会社 岩波書店
岩波国語辞典第8版	2019年11月	西尾 実・岩淵 悦太郎・水谷 静 夫・柏野 和佳子・星野 和子・ 丸山 直子/編	株式会社 岩波書店
学研現代新国語辞典改訂4版	2008年1月	金田一春彦・金田一秀穂/編	株式会社 学習研究社





発行/2024年1月

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司 2146-2 TEL/FAX 0984-35-3144

ホームページ



X (旧 Twitter)

